

伊能忠敬の測量とその後の測量 世界や地球をどう測る

平成30年9月15日

広島市こども文化科学館

伊能忠敬没後200年記念企画講演会

東京地学協会

星埜由尚

伊能測量の特徴

- 当時の一般的測量術(廻り検地)
- 天文測量の導入(恒星の高度、日食・月食、木星の凌犯)
- 測量機器の改良
- 誤差低減に腐心(交会法、横切測線)
- 地球上の位置(経緯度の観測)
- 大陸との結合(朝鮮半島の山を測る)

伊能測量の成果

- 「大日本沿海輿地全図」を幕府に提出
- 大図(1/36,000) 214図葉
- 中図(1/216,000) 8図葉
- 小図(1/432,000) 3図葉
- 「大日本沿海実測録」
- 特別小図(1/864,000)
- 江戸府内図(1/6,000)

伊能測量成功の原動力

- 学問への傾倒＝佐原時代の勉学
- 経済力＝前半生の成功
- 測量家としての適性＝謹厳実直・忍耐力
- 豊富な人脈＝師・弟子・桑原隆朝・文化人
- 幕府の支援＝高橋至時・景保、堀田摂津守
- 各藩の協力＝西日本諸藩

その後の伊能図

- 幕府提出後は秘図になった
- シーボルト事件(1828文政11年)
- 幕末には写しが作られた(海防のため)
- イギリス測量艦に与えた伊能図
- 官版実測日本地図の刊行(1867)
- 大日本沿海輿地全図焼失(1873)
- 伊能家控図を政府に献上
- 明治政府測量・地図機関における活用